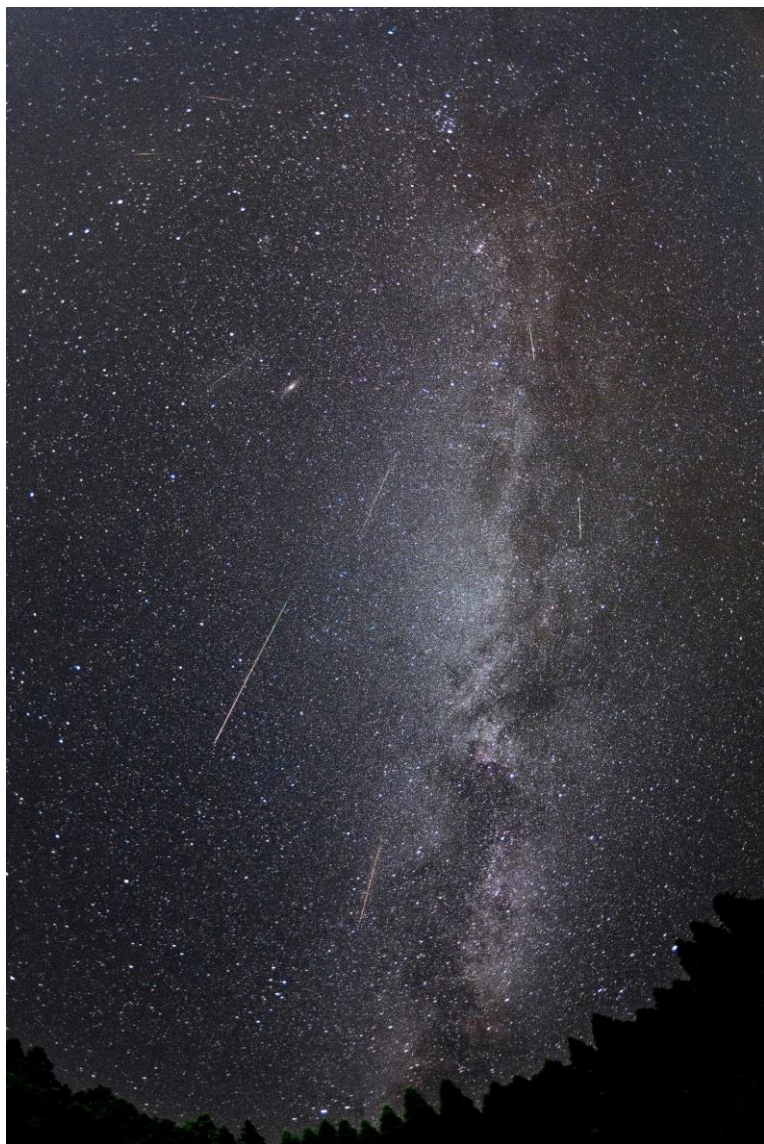


ペルセウス座流星群 写真教室



ペルセウス座流星群

2013年08月13日

16mm、ISO2000、f 2.8、60秒×9枚、Raw、赤道儀で恒星追尾撮影、
2013年8月13日01時57分、揖斐谷、篠田通弘撮影

「ペルセウス座流星群 写真教室」

参加の皆さんへ

流星群との出会いは楽しいものです。子どもの頃はもちろん大人になっても、流れ星を目にすると何かいいことがあります。そう思います。

流星とは大きくても数mmの粒子が、秒速数十キロメートルの高速で地球大気圏に突入することによって光の筋が一瞬夜空に走り、すぐ消える発光現象です。

この一瞬の光をカメラで捉えることは簡単ではありません。第一いつ流れるか分からないのが流星です。しかし1年の中でたくさん流れる時期が分かっています。それが流星群です。

代表的な流星群の1つに8月のペルセウス座流星群があります。今年は8月13日未明と14日未明に極大に近くなり、1時間に40~60個見られる可能性があります。

星空撮影の方法には三脚とカメラで撮影する三脚固定撮影とポータブル赤道儀を使用する恒星追尾撮影があります。今回は流星群撮影の第1歩として三脚固定撮影の基本を学びます。

星空の撮影はシャッターを押せばとりあえず写る（であろう）明るい所と違って、ピント合わせ、ISO感度、絞り、シャッタースピードをすべてマニュアルで決めなければなりません。それでも写るかどうかは運を天に任せる他はないほど困難なものです。だからこそ写っていた時はこの上ない喜びとなることでしょう。

☆ セミナーの目標 ☆

夏の夜空を流れる流星群を撮影するための知識と技術を身につけよう

セミナーは次の1)~3)の3部構成です

- 1) 星空撮影の基本
- 2) ペルセウス座流星群の撮影
- 3) 【おまけ】 地球照の撮影法

事前の確認やセミナー後にお願いしたいこと

- 1) カメラの撮影モードを「プログラムオート」「絞り優先オート」「シャッタースピード優先オート」から「マニュアル」へ変更、ISO感度を「ISOオート」からマニュアルへ変更する方法
 - ・オートフォーカスを解除しマニュアルでピントを合わせる方法
 - ・クリエイティブロック（スタイル）をNT（ニュートラル）へ変更する方法
 - ・ケーブルレリーズをカメラに接続して連続撮影（連写）する方法
- 2) 街明かりが避けられ、できる限り光害（ひかりがい）の少ない場所を見つけること
 - ・防犯に留意し、安全に観望・撮影ができる場所を選定すること
 - ・撮影の好機は8/11の21時頃から8/15未明の4晩。ベストは8/12の21時頃から8/13未明、8/13の21時頃から8/14未明の2晩。予定の調整を
- 3) 【参考】地球照は7/22の夜のはじめ頃に撮影の好機

金星と地球照の月（2023年5月 篠田通弘撮影）→

